

## 宮城大学同窓会

宮城大学開学 20 周年記念 同窓会特別計画 決起大会(2016.6.4)

### 開催報告

2016.7.5

宮城大学同窓会 運営委員会

日時 2016 年 6 月 4 日(土)13:30~15:00  
場所 宮城大学大和キャンパス多目的室  
参加者数 20 名

#### ・はじめに

現行の同窓会規約による総会の成立要件は、「全会員中の過半数」ですが、今回開催された会は、これを満たしておりません。今回の会は、同窓会会員有志の集会という形となりました。そのため開会の冒頭に、同窓会運営委員長の畠山さんより、当会については、総会と同様の手続きによる運営を行い、その結果については、有志の集会における話し合い事項として結果を尊重し、内容を同窓会運営委員会に諮問した後、同窓会規約第 11 条に基づき、一定期間のネット上での公示を経て同窓会の正式な議決とすることで担保する旨の宣言が行われた後に、議事を進行致しました。

#### ・議長選出

今回の議長として、事業構想学部 2016 年卒業生の阿部 仁美さんが選出され、議事が進行しました。

#### ・同窓会の経緯報告

2007 年 12 月に設立された宮城大学同窓会の経緯、および当時から変化した状況等について説明がありました。また、私たちの宮城大学が 1997 年の開学から、ちょうど 20 周年の節目の年を迎え、今回同窓会再立ち上げの機会と位置付け、それを盛り立てる企画を実行しつつ、同窓会自体をより望ましい形に変革していくことを両輪として行うため、その決起大会として本会を企画した旨の説明がありました。



・宮城大学開学 20 周年記念 同窓会特別計画(企画実施及び同窓会改革)について

大和キャンパスでの「ホームカミングデー企画」、「同窓生パーティー」の実施方針について説明がありました。

ホームカミングデー企画については、大学祭のタイミングで、卒業生トークイベントを実施する旨の説明がありました。大学祭期間中をホームカミングデー期間と位置付け広報、大学祭の集客にも貢献したいとの意気込みが語られました。

同窓生パーティーについては、各年次・学部学科の代表者を募り、手の上がった年次・学部の共同開催という形を取り、代表者を幹事として、出席の呼び掛けを行い、実施する方針の説明がありました。

以上の説明について、議長より賛否の議決が取られ、賛成多数として承認されました。

・同窓会広報計画について

同窓会報の第一号発行方針が発表されました。同窓会のこれまでの経緯や、今年の動き、また様々な単位での同窓生の集まりの代表をされている方々から原稿を寄せて頂き、同窓生の現在を広報する手段として発行することが説明されました。

次に、並行して同窓会掲示板の学内設置(大和・太白両キャンパス)を、大学に要望する方針が発表されました。目的としては、学内での同窓会への認知向上と、来学した卒業生への情報提供となります。同窓会報の掲示や、今回の会の結果や、その他同窓会の公示を掲示する旨の説明がありました。

以上の説明について、議長より賛否の議決が取られ、賛成多数として承認されました。

・同窓会改革について

報告事項として同窓会改革の方針が発表されました。

大きく四点となります。

一、総会開催の必要要件に関する条項の変更

一については、次の議案にて改めて説明する旨の説明がありました。

二～四については、今後更に深く議論を重ね、秋の定期総会での議決を目指すことを前提に、内容のお披露目として説明がありました。

二、会員定義の変更

宮城大学同窓会の会員に、現役生を含めるように明文化する方針が示されました。趣旨としては、卒業生としては現役生の協力を得て同窓会運営を強化する、現役生としては卒業生との交流で刺激を受けられる、また直接対価として報酬を得られる様な業務の発生もある、かつ卒業全・後で途切れ目の無い仕組みを作ることで組織強化につながる事等があります。現状でも同窓会会員の要件として、宮城大学の在籍経験者、かつ会費を払い込み、連絡が取れるもの、ということで、現役生への門戸開放をしておりますが、卒業前・

後での現役・OBOG が一体となった関係性を築くことで、卒業前の現役時代を助走期間として、卒業後の世代間の繋がり、同窓会活動強化にも繋げてゆく構想であることが説明されました。

### 三、同窓会会員情報管理の運用変更について

会員情報管理に関して、SNS を含むネットワーク上での交流の仕組みを残しつつ、名簿管理への移行を図ることの説明がありました。名簿の作成については、当初は同窓会単独での名簿整備を考えており、宮城大学の開学からこれまでに、概算で約 6,000 名の卒業生が輩出されているところ、SNS 登録ベースで現時点 1,124 名の会員規模として運営されている当同窓会は、この名簿化により、4,000 名前後の会員規模の同窓会として再出発となりますが、現在、大学からの提案事項もあり、その件については随時話し合いを行う予定である旨の説明がありました。

### 四、食産業学部同窓会の規約明文化

食産業学部の卒業生で構成される同窓会の設立構想を後押しするため、宮城大学同窓会として次回総会での食産業学部同窓会設立の正式承認、及び今後の連携を行うために、同窓会規約への盛り込みを行う方針が発表されました。

食産業学部同窓会の代表が、宮城大学同窓会の役員を兼任することを必須とし、また今後においては名簿管理やイベント実施、広報において、一体的にできる部分は行うことをはじめとして相互に協力を行うことや、予算措置上の経費支出等、広範囲の連携を行うことが示されました。こうした小規模な単位での親睦を深めるために、会の細分化というのは、どんどん行われるべき望ましい動きだという考えと共に、そうした小規模な単位の代表の方が全体の同窓会運営にご協力頂けるような流れも、今後作っていきたいとの説明がされました。

ここで本日、食産業学部同窓会の準備メンバーから、食産業学部第一期卒業生の高橋翔さんより一言、お話を頂きました。



高橋さんからは、これまで食産業学部の同窓会立ち上げということで、同じく食産業学部一期生の嶋田さんを中心に準備を進めてきたこと、食産業学部では一期生を中心に同窓

会立ち上げの準備を進めており、一昨年、食産業学部が開学 10 周年を迎えた際には、大学事務局、在校生の協力のもと、有志で集まった卒業生がスタッフとなりホームカミングデーを開催し、初めて卒業生が一堂に会する機会を設けることができたこと、昨年も同様に太白キャンパスでの大学祭でホームカミングデーを開催し、各学科の卒業生をパネリストとし、在校生や食産業学部を志望する現役の高校生を対象に講演会を行い、そのようなイベントを行う上で、やはり卒業生への告知、連絡体制の整備などが課題として残ったこと、今回、正式な同窓会立ち上げを行うことで、安定した組織体制をつくり、より充実した活動を行っていききたいこと。位置付けとして、全体の宮城大学同窓会に入会していることを前提に、分科会としての食産業学部同窓会に属することとし、現在の宮城大学同窓会の運営方法に倣い、互いの協力のもと、運営を行っていききたいという話がされました。

#### ・議決事項、同窓会規約改定案

今回の最終議題として、同窓会規約改定案について説明がありました。今回このような形で会を開いても、残念ながら同窓会規約上は総会の成立要件を満たさないため、同窓会会員有志の集会という形になってしまっている現状、ネット上での公示による意思決定が容易であるため、リアルに総会開催を行うのと比べてバランスが悪い現状について説明があり、この仕組みに頼りきりでの例年の同窓会運営となり、結果として活動が見えないものとなっていた旨の総括がありました。

この流れを断ち切り、新しい仕組みを作って良い循環を作るための一歩としたいという考えがあり、具体的には、現行の総会開催に関する同窓会規約第 10 条「総会は会員の過半数の参加（電子的手段等による委任を含む）によって成立し、その決議には出席者の過半数の賛成を要する。」を改定し、「総会は同窓会運営委員会委員長が招集し、開催 3 週間以上前からの公示と当日 15 名以上の会員出席が行われることにより成立する。その決議には会員出席者の過半数の賛成を要する。決定事項は 1 ヶ月間の公示期間を経て、その期間中に全会員中 1/5 以上の反対意思表示が無い場合に最終的に成立する。」と変更し、これにより、定期総会の招集・開催が無理のない形で実現可能になる見込みであることが説明されました。

以上の説明について、議長より賛否の議決が取られ、賛成多数として承認されました。

最後に、同窓会運営委員長の畠山さんより、協力スタッフの募集、同窓会の業務全般に関して、業務準標準化の観点を取り入れて、細切れで少しずつでも問題無く協力頂けるような仕組みを作りたいと考えており、そうした点を踏まえて、同窓会の役員についても随時募集いたします、との呼びかけがなされ、閉会となりました。

以上です。